令和6年度第1回印西市男女共同参画推進委員会 会議要旨

1. 開催日時 令和6年6月14日（金）午前10時～11時
2. 開催場所 印西市文化ホール 2階 大会議室
3. 出席者 萩山久雄委員、大橋葉子委員、國武悠人委員、小林久男委員、小川君子委員、本橋喜久美委員、小杉志行委員、宮本律子委員
4. 欠席者 萩原朋子委員、赤堀久里子委員、中嶋加奈江委員、市原康之委員、小幡葉子委員、松山由香委員
5. 傍聴者 0名（定員5名）
6. 事務局 市民活動推進課：伊藤課長、鈴木課長補佐、千葉井係長、山本主任主事
子育て支援課：齊藤課長、小川課長補佐、黒田係長、平川副主幹
7. 会議内容（すべて公開）

1. 開会

2. 議事

- (1)（仮称）印西市男女共同参画センター設置にむけて

- (2) その他

3. その他

4. 閉会

8. 会議録

- 1 開会

- 2 議事

- (1)（仮称）印西市男女共同参画センター設置にむけて

《事務局説明》

資料1～4をもとに説明

《委員意見》

委員長 事務局の説明が終わりましたが、御意見、御質問はあるか。男女共同参画センターで実施する事業についても意見があれば願います。

委員A 資料4の職員についてだが、現在の市民活動推進課の職員を横滑りで配置するのか？それとも新規で職員を採用するのか。

事務局 男女共同参画センターに配置する職員については、現在の男女共同参画係職員が配置されるというものではない。男女共同参画センターで男女共同参画事業の推進を強化していくという意味で、新たに職員を設置する予定である。

委員B まず、一市民として男女共同参画センターが印西市に設置の運びとなるのが非常に嬉しく思う。センター設置に向けて皆様方に心からお礼申し上げたいと思う。私自身も他市で男女共同参画センター管理に携わってきた経験があり、非常に市民にとって必要な施設だと認識している。事務局の説明にもあったが、全国に約360の施設があり、これから幅広く、市民の意見を伺いながら印西市にふさわしいセンターの在り方を作っていくのかなと思っている。

まず、スタートダッシュとして力を入れていただけるのであれば、センターの存在を周知広報し、知っていただくことが大切なことなのではないかと思う。私が以前務めていた千葉市の男女共同参画センターは今年度で25周年と歴史があるが、男女共同参画センターって何するところですか？みたいな御質問を毎年若干伺ったりもする。それが現実ですし、センター自体を知らない市民も当然いらっしゃる。事務局が作成した資料では、男女共同参画センターを知らない人にも、センターがどういうことに取り組む施設であるかということ非常にコンパクトに分かりやすくまとめていただいて、今日御出席の委員の皆様御理解も進んだことではないかなというふうに思っている。やはりそういったことを市民に広く周知広報していき、センターの役割機能を正しく理解していただくということが非常に重要かと思う。先ほどの説明の中では、非常に多岐にわたる役割機能を求められるセンターだが、その全てを一度に出来るといわけには行かないので、限られた人員、限られた予算の中でパフォーマンスを出していくということになるかと思う。

昨年度、私共が協議させていただいたプランの中では、あまりセンターについての位置づけが正確にはできておらず、時間が足りなかったかなと反省点として思うころはあるが、これからそこを補っていく。センターの設置管理条例は、ある程度シンプルな形にはならざるを得ないかと思うが、資料1にもあったとおり、男女共同参画社会の実現に向けた活動拠点であるということが、正しく市民に周知されていくということが一番必要だと思っている。情報提供や学習機会提供、交流の場であることも大事なことはあるが、生涯学習的な施設とはやはり違う役割機能になっていることが、やはり行政の説明責任としては一番大事な事かなと思う。そうした点を踏まえた形でスタートしていただけると非常に心強いかなと思う。

委員長 貴重な御意見をありがとうございます。

委員A センター職員の規模はどれくらいか。第4次印西市男女共同参画プランでは、18ページにDV事案の相談の必要性について記載がある。女性の悩み相談、法律相談はあるが、男性のDV被害が平成27年委は12%だったのが、今27%になっているので、男性の悩み相談があるべきだと思う。

第4次プランの策定にあたり、昨年度お話ししたと思うが、「あらゆる暴力の根絶」で「女性に対する暴力の根絶」について指摘した。DVは性別に関わらず良くないという形に変えていただいたと思うが、それがこの計画に反映されていないように感じる。内閣府が行った男性相談に関するアンケート調査では、6割ぐらいの都道府県市区町村で男性相窓口は無いという状態である。7%は男性専用相談窓口があり、31%で男性も女性も兼ねた相談窓口があるというところである。子育ての街ということで男女が共に認め合えたって高め合えることを目指すというところであれば、印西市にも取り組んでいただきたい。

事務局 男女共同参画センターの職員規模は、資料1の4に想定人数3名と記載している。現在は予定であり、これから人数の確保があるが、3名は配置したいと考えている。男性のDV相談だが、男女共同参画センターの女性の悩み相談はDVに特化した窓口ではない。女性をめぐる様々な悩みに対する相談窓口である。男性の悩み相談だが、資料2の千葉県内のセンターの設置状況や男性の悩み相談の重要性・必要性があると認識され始めているのを事務局も感じている。今後、事業を検討していくにあたって、男性に向けた事業も検討していきたい。

委員長 今はもうやっていないが、私は「男性の悩み相談」の相談員をやっていた。現状を申し上げると、「男性の悩み相談」はなかなか無く、千葉県と東京都、大阪府が中心となって始まり、県のセンターは当時週1回だったが、現在土曜日を含めて週3回実施している。市町村はどうかというと、女性からの相談が圧倒的に多く、男性相談の窓口を作るところまではいっていない。2~3年前には船橋市で「男性の生き方相談」が始まった。それ以前は、千葉県の男女共同参画センターの男性の悩み相談を案内されていた。市町村レベルでは、専門的に対応できる人を揃える難しい面があるが、将来的に対応する必要があると考える。

委員C 委員長より、現状が分かるお話をいただけたと思う。NVECという行政独立法人国立女性教育会館では、相談業務に従事する職員の講座を毎年やっており、相談業務にあたっている人でも、相談というものが難しいと理解できると思う。では、印西市の男女共同参画センターがどんな風にやっていくのかというと、委員長や委員Bがおっしゃっていたスタート時の体制、それから先についても事務局からの説明があった通り、私たち委員がサポートをしていけたらと思っている。相談

業務は難しいというところで、委員長の話のように、拠点としてこういった所もあると案内できるところからだと思っている。

私は市民活動支援センターのコーディネーターをしているが、色んな市民活動団体があり、そこと連携できると良いかなと思う。

委員B 資料2では、県内センターの相談実績が女性と男性相談に分かれて載っており、千葉県、千葉市、松戸市、船橋市が実施している。委員Aがおっしゃったように男性相談のニーズが増えてきているという感触を受けていた。千葉県が電話相談の対応する日数などを増やしている。男性相談の難しさは、「男性相談」と名前をつけたから男性が相談してくれるかということ、そうでもない。実際に相談者や利用者、男性に事業拡充していくかどうかにあたり意見を聞いたが、男性の場合には、例えば法律についてとか、何か具体的なテーマについて相談できるというのであれば相談しやすい、男性相談という看板があるからといって自分の悩みが相談していい悩みなのかどうか少し考えてしまうという御意見があったりするなど、なかなか難しい。DVも待ったなし事案が多く、各自治体が配暴センターを設置して緊急性に応じて繋ぐことや、相談窓口が専門機関と連携することが求められている。男女共同参画センターでは、相談者自身がDVなのか何なのか気が付いていなかったり、どこに相談していいのかわからなかったり、多様な悩みの入り口になる役割を担っていると思う。これからのセンターの活動を踏まえ、そういった必要性や市民からの意見を行政の方で分析された上で、今後印西市としてどう取り組んでいくかというところが見えてくるのではないかと。現在は拡充した県センターや人口の多い千葉市が相談窓口として受け止めているが、民間のNPOやよりよいネットワークさんですとか、悩みの内容によって、より専門的に適切な対応しているところも非常に多くあるので、そういった機関と連携していくのが大切なのではないかと考えている。

委員A 相談員の人材の問題もあると思う。情報提供事業で県センターの男性の悩み相談を紹介するなどから始めるだけでも需要の確認だとか、ひとつあると思う。

委員長 男性相談で難しいのは、DVの被害を受けているとのことで男性からの相談を受け付けたところ、具体的に聞いていくとDVの加害行為をやっているという内容だった。相談では、自分は被害を受けているという相談をしたという実績をつくり、さらに市町村や色んなところに「自分はDV被害者で相談をした」という実績を報告する人がいる。これでは相談が「DV加害者への支援行為」になってしまう。相談内容の判断、その後の経過を見ていくなど、経験と法の知識が必要であると私は考えている。

委員D 事業において、資料4の4条では、情報の収集及び提供に関することとあるが、センターがひとつの拠点となって全てを行うのか、または支所との役割分担など、関

連性を持ちながら業務を進めていくのか？市内でも人口密度の低いところにも関与するような仕組みが必要なのではないか。センターで独自で情報発信を進めていくのか、支所と関連を持って情報を広く発信していくのか、知りたい。

事務局 男女共同参画センターで基本は情報を提供・発信していくのかについてだが、情報提供資料の設置は各支所にも行う。また、支所でもパンフレットの設置や相談窓口、男女共同参画センターを十分に周知できるように、体制作りはできるのではないかと考えている。

委員B おそらく、情報が市内隅々までちゃんと行き渡るのかが心配されたのかと思われるが、事務局からの説明にもあったとおり、男女共同参画センターは、拠点として情報収集の発信という役割が求められる。その情報は当然として市内全域に提供していくべきものですので、今もさまざまな施設に周知広報されていると思いますし、センターができることで今後ますます積極的に市民へ情報提供がなされていくのではないかと期待されるのではないかと思う。

委員E 例えば、中央公民館のお休みは月曜日と祝日だと決まっているが、センターの休みは土日や祝日か？

事務局 案ではあるが、資料4 施行規則（案）第3条に土日祝日は休所日として記載させていただいた。

委員長 委員の皆様より忌憚のない御意見を頂き、感謝する。事務局には、今回出た意見を反映、参考にしていただき、男女共同参画センターが完成し、さらに発展していくことを期待している。

（2）その他

委員長 他に委員より議題としたい内容はあるか？

委員 （異議なし）

委員長 特に無いようなので、全ての議事を終了する。御協力ありがとうございました。

3. その他

事務局 第2回の印西市男女共同参画推進委員会は、9月に開催する予定である。日程が決まりましたら開催通知をお送りするので、よろしく願います。

4. 閉会

会議資料

- ・ 次第
- ・ 印西市男女共同参画推進委員会委員名簿
- ・ 【資料1】 印西市男女共同参画センターの設置にむけて
- ・ 【資料2】 県内センターの講座等の実施状況
- ・ 【資料3】 (仮称) 千葉ニュータウン中央駅圏複合施設整備設計概要
- ・ 【資料4】 印西市男女共同参画センターの条例(案)と施行規則(案)

令和6年度第1回印西市男女共同参画推進委員会の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和6年 6月 24日

印西市男女共同参画推進委員会

会長 萩山 久雄